



Sir William Osler

「ウイリアム・オスラー卿」

院長 西田 敬

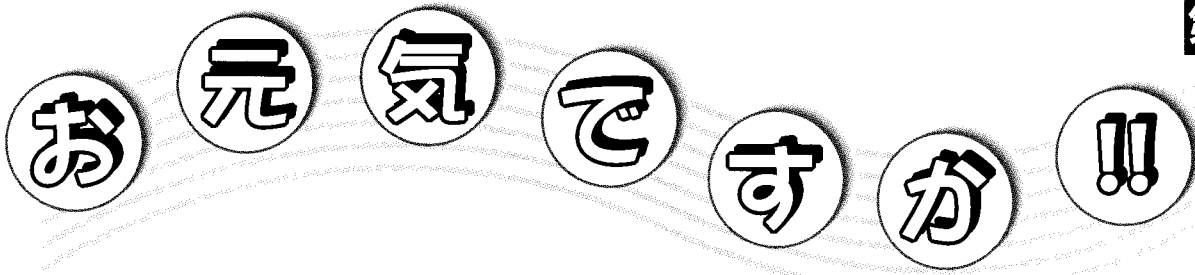
名文句や名台詞、良い言葉は記憶に残る。「いや～何とお、申しませうか、打ちも打ったり、捕りも捕ったり」決して選手を貶さない野球解説者。御存知、小西得郎氏。好プレーを際立たせる名調子。時には実況向いて現場を活写する。内角を鋭く挟む杉下の剃刀シュートが股間を直撃。これは痛い、まさに痛恨のデッドボール。残念無念、堪らず蹲踞った打者は巨人軍の捕手、藤尾。放送表現に苦慮するNHKアナを尻目に、「いや～何とお、申しませうか、今の痛さ許は御婦人方には絶対にお分り戴けない痛みでして…」今でも残る名科白の傑作。併せて砂塵舞上るグラウンドのシーンまでが脳裏に浮んでしまう（当然、テレビ放送ではないのだが）。大相撲も凄かった。猛突張りの巨漢、大内山を土俵際で投棄した栃錦、起死回生の首投げ一閃。容赦なく顔にも4～5発、張られ乍も敵の首玉に飛付いた。実際には見えた筈もないが、今でも鮮烈に残る小学生時代の記憶。血走らん許に紅潮した栃関の憤怒の形相が目の当たりに蘇る。これは余程の名中継から得られた賜物に相違ない。

扱、医学の分野でも名科白があるか？胎生哺乳類である女性の象徴でもある月経現象。夫れは何か。簡潔、明快に答えよ。医学生に対する口頭試問の

定番のひとつ。茲で歴史的な模範解答を。月経とは“the tears of a disappointed uterus”で御座候。さらりと云ってのけたのは近代医学教育の泰斗、ウイリアム・オスラー卿。ナ何ですと、失意の子宮が流す涙？余計判らん。然らば、「言わずもがな」誇りを覚悟で蛇足を試みる。「準備万端も虚し、今回も懐妊には至らず。種の保存、繁殖に亦しても貢献せなんだ。生物としての責務を果し得なかった嘆きの子宮から溢れ出す慚愧の涙」では如何じゃ。冗長やな。こうして見ると矢張りオスラー卿の方が恰好エエ。そりゃ厳格な階級社会の英国で傑出した医学教育者としてKnightの爵位を授かった御仁。当時のカナダ人としては二人目の快拳。遂には王立アカデミー会員にも迎えられたSir William Osler、歴史に残る医学教師との比較は酷ヤデ。処で、忘れられがちな事だが教育者は天職である。詰り、天賦の資質が要求される。教科書を著せる程の専門分野に於ける深い造詣や進取の気象、教え子の成長過程を見守る愛情と洞察力は最低条件。加えて鋭い機知、特に民族的な遺伝子の欠落の為か、殆どの日本人が持ち合わせぬ劇軽さをも加味したユーモア精神。其の点、Osler卿は完璧。「子宮の涙」なんて発想は諧謔の心なしには捻出せない。Johns Hopkins大学の教授時代に合衆国とカナダの医学教育履修過程を革命的に一変させた、1892年に著した劃期的な教科書The Principles and Practice of Medicineは佛語、独語、は勿論、SpanishやChineseにまで翻訳され、最も重要な医学教科書として其の後40年間も世界に君臨した。元々、父親の足跡に倣い英国国教の牧師として聖職を志したオスラー卿。何故の医学への転進か。切掛は神学校で出会った一教師の薫陶。自ら教育の力を実感した卿は教育の改革に傾注。実践的な医学を！宛ら古代ローマの闘技場、円形の階段教室を廃止。臨床教育はベッド・サイドで。斯くして近代医学教育は始まった。扱、己が医学を志した切掛を茲らで思い起しては如何。実に実に「初心忘る可からず」ですぞ、各々方！



第168回



新型インフルエンザは何者か

内科部長 加地 正英

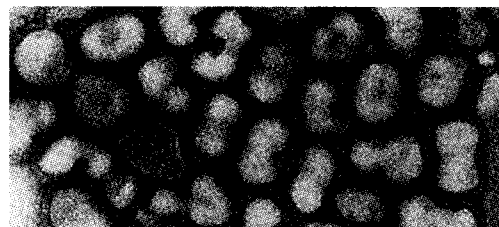
4月にメキシコで発生した新型インフルエンザはブタから人に感染したものです。この新型ウイルスは1918年に世界的に大きな流行をおこし、多くの死者をだした「スペインかぜ」によく似たものです。またこの型のインフルエンザはそれ以降流行していません。そのため大正時代に罹患した人、つまり80歳後半以上の人しか抗体をもっていません。言い換えれば多くの人にとって初めてのウイルスとなるわけです。ちなみに毎年流行するインフルエンザは新型に対して季節性インフルエンザと言われます。おもにA型インフルエンザはH1N1（ソ連型）とH3N2（香港型）の2種類が流行していましたが（B型の説明は省略します）、今回の新型インフルエンザはH1N1の中に入ります。厳密に言えば、昔はHsw1N1として別に区別されていましたが現在は同じ分類H1N1に入れられています。

ではこのウイルスはどこから来たのでしょうか？インフルエンザは人だけではなく多くの動物に感染します。最も多くインフルエンザに罹るのは鳥です。理論上は144種類ものインフルエンザにかかります。珍しい動物であればイタチの仲間のフェレットや鯨もインフルエンザにかかります。しかし、インフルエンザは通常は罹りやすい動物が決まっており、たとえば鳥のウイルスが簡単に人に感染して広がることは無いのですが、ブタだけは人のウイルスも鳥のウイルスも感染します。もちろんブタのウイルスにも感染します。そのため時として人と鳥のウイルスが同時に感染して「あいのこ」ウイルスが出来ることがあります。つまり新型インフルエンザの本体（遺伝子）は鳥と人のインフルエンザがまざった、いわゆる「あいのこ」ウイルスなのです。こうして新型インフルエンザが登場したと考えられています。そのため型こそH1N1ですが、実際には昨年度流行した季節性インフルエンザと大きく異なります。また新型インフルエンザは今回突然出現したように見られますが、

実は以前から人への散発的感染が報告されていました。特に2005年頃からは米国（メキシコに接しています）で散発例が報告されています。

前にも述べましたが、今回大変な訳はこのウイルスに世界の大半の人が初めて遭遇することになることです。死亡率や合併症の発生率については、季節性のインフルエンザに比べて極めて高いわけではありません。しかしインフルエンザに感染する人の数が極めて多くなるため、比例して死亡者や重症者の数が増えるのです。また一時期に多くの感染者が出るため、病院に患者さんが殺到して病院の機能が麻痺したり、抗インフルエンザ薬が不足したりすることも懸念される状況です。今は若い世代で感染者が多く出ていますが、感染が拡大すると乳幼児や高齢者も感染する機会が増加します。

対策としては予防が重要ですが、新型インフルエンザ用のワクチンは今年中には全員には行き渡りません。そこで感染の機会を減らすため不要不急の外出を控え、マスク・手洗い・うがいなどの励行が重要です。さらに早期の治療が肝要です。しかし、患者さんが一時期にたくさん出る可能性もあり、病院での感染機会も増えます。病院には糖尿病や高血圧などで治療にこられている患者さんもたくさんいます。その様な方に感染させないためにも、みなさんの協力が必要です。くれぐれも病院へ直接受診するのではなく、まずはかならずかかりつけ医や病院に電話をして相談してから受診してください。



CDC (Centers for Disease Control and Prevention 米国疾病対策予防センター) ホームページより

新型インフルエンザ
ウイルス



薬剤部 だより

第6回

薬剤師 田村 和彦

「薬害」

くすりとは、「病気や傷の治療のために、あるいは健康の保持・増進に効能があるもの」と定義づけされ、健康のために使うものです。それに対して健康を害する効果が現れることを「副作用」といいます。くすりの作用と副作用は光と影であり、対を為すものです。どのようなくすりにも副作用は存在します。現在、くすりとして使われているものはあくまでも副作用を上回る有益な作用をもつものとして使用されている事になります。一般に副作用が本来の作用を上回ってしまうくすりに関しては販売を認められない訳ですが、過去に起こったそのような有害な事象のうち社会問題となるまで拡大し、中でも特に不適切な医療行政の関与が疑われるものを「薬害」と呼びます。

“悪魔の薬”といわれたサリドマイド

サリドマイドはドイツで開発されたくすりです。元々は抗てんかん作用を期待されたくすりだったのですが、催眠作用が認められて睡眠薬として発売されました。当初、副作用も少なく安全な薬と宣伝されたことから妊婦のつわりや不眠症に多用され、後の被害者増加につながりました。サリドマイドには高い催奇形性があり、高い頻度で胎児に異常を引き起こすとされ、さらに流産防止作用もあるとされています。産まれてくる胎児は手足の発育不全を引き起こし手足が極端に未発達な状態で出産、発育する（アザラシ肢症）のが主な症状ですが知覚や意識、知能に影響はほとんど見られません。

サリドマイドによる被害者は日本を含め世界中で約3,900人、約3割が死産だとされ総数は約5,800人とされています。

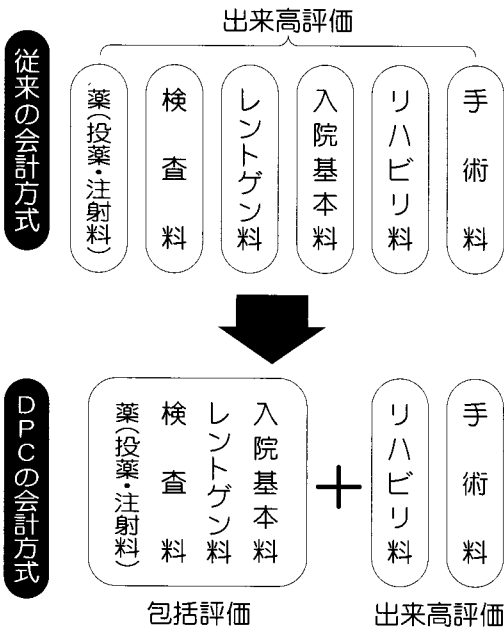
このようなサリドマイドですが、改めてその作用が見直されています。胎児の手足発育不全の原因とされる血管新生阻害（新しい血管を出来にくくする）作用は一部のガン細胞への栄養を遮断することで、その治療効果があるとされています。又、ハンセン病治療やエイズ、糖尿病性網膜症の予防効果等も検討されています。

現在では、ガン患者らは自分たちの命をつなぎとめる薬として厚生労働省にサリドマイドを再承認するよう求め、サリドマイド被害者団体は十分な審査と規制を設けるよう求め、その両方の意見を受けて同省は製薬企業、病院、患者に対して厳正な管理の下での製造販売を承認しました。

世界中で多くの患者に影を落とし“悪魔の薬”と言われたサリドマイドですが、今では同じく多くの患者に光をもたらす“希望の薬”として期待されています。

当院はDPC対象病院です

DPCとは、Dignosis Procedure Combination の略で、従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、入院患者の病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた1日当たりの診療群分類点数をもとに医療費を計算する新しい定額払いの会計方式です。



地域がん診療連携拠点病院 第2回 地域住民公開講座

演 題

「がん治療とがん診療連携拠点病院」

講 師

大分大学医学部附属病院長 古林 秀則先生

日 時

平成21年10月18日(日)13時30分～15時

会 場

日田市中央公民館(文化センターホール)
日田市上城内町2-6
電話 0973-22-6868

申込み 事前申し込み不要

参加料 無 料

主 催 大分県済生会日田病院

共 催 市民健康福祉まつり実行委員会

【9月・10月の巡回診療日程のお知らせ】

地区名	診 療 日	場 所	時 間
東羽田高花	9月 10月 15日(火)・29日(火)、13日(火)・27日(火)	高花公民館	1:45～3:15
古 後	9月 10月 14日(月)、20日(火)	古後生活改善センター	1:45～3:15

※身体のごことでお悩みの方は、お気軽にお出ください。

*健康保険証、医療受給者証（または高齢受給者証）を持参してください。

*病院の窓口で現金をお支払いいただくのと同様に有料です。

済生会日田病院の「理念」と「基本方針」

理念 「済生」の心を受け継ぎ、医療と福祉の充実・発展を通して、安心して暮らせる地域社会の実現に貢献します。

- 基本方針**
1. 信頼される救急医療体制を構築します。
 2. 関係機関との連携を図り、高度医療を提供します。
 3. 職員の協調と信頼によって、チーム医療の充実を図り、患者本位の医療を実践します。
 4. 中核病院として、地域の医療水準の向上に努めます。
 5. 総合的な医療の質の管理を行い、健全経営を目指します。